

パセリ〔初夏播き冬穫り〕 (パイプ・ハウスまたはトンネル)



育苗

- [6月]
播種後、灌水時

➔ 種子浸漬、播種、薄く覆土、その後の灌水に、
●根っ酵素1000液を灌水→揃いにくい発芽を揃える。
発芽は10日位(15日以内)に揃えばよい。灌水を多くしすぎない。

- [播種後10日頃]
発芽揃い時

➔ 大体、発芽が揃うのを見て、
●花咲くCa液1000倍を灌水→苗を徒長させず、充実させる。

- [播種後20日頃]
間引き時

➔ 本葉が展開したら、1穴3~4本に間引きし、その後の灌水に、
●根っ酵素1000液を灌水→根を強く、生長を進める

- 育苗後半

➔ セル苗40日、ポット苗50日程の、後半には、通常は7日ごとに
根っ酵素液と花咲くCa液の交互散布。肥切れならアミノ酸液。

- 定植3日前

➔ ●花咲くCa液500倍を灌水→定植に備え苗を充実させる。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	なるべく早い時期に全面に投入して深耕する (定植までに1ヵ月以上おく事)	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g→排水・通気よく、保肥力のある土に。 ●堆厩肥2~3トン ●硫安120kg(チッソ成分:24kg) <p>※栽培期間が長いので、必ず堆厩肥をしっかり投入する事。 ※このチッソは菌に摂り込まれて地力化し、定植時には必ずEC:0.1~0.2程度に落ち着いている事。 ※このチッソ等は元肥にかわるもの。 通常、元肥には被覆または緩効性のチッソ肥料を使っていますが、経験上、チッソ成分:24kg程度を微生物で地力化し、栽培途中で調節の方が確実。 ※必ず深さ30cmまで土壌pHを測定し、pH:6.0以下だった場合は、この時に 畑の大将〈青〉も併用する事。</p>
ウネ作り時	ウネ作り時に、カルシウムを全面に散布	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将〈青〉120kg <p>※土壌pH:6.0~6.5、これを翌春まで維持する事。 (栽培中に決して pH:5.5以下にはならないように注意。) ※パセリには多量のカルシウムが必要です。もしもカルシウムが足りないと、軟腐病や芯腐れが多発する。 ※特に旺盛に生育を進めたい場合、また連作地や、土壌病害・線虫が心配な畑では、マンゾク・粒状 60kgを追加する。 ただし収穫期にはマンゾクの追肥か根っ酵素液で補う事。</p>

平葉種
(イタリアン・パセリ)
では各100kg

時期	方法	資材と施用法
[8月] 定植	定植後の灌水 (炭ノ、疫対策も)	●根っ酵素500倍1ℓを灌水 → 直根を深く伸ばし、活着。(10日以内)
[9月] 間引き	間引き後の灌水	●根っ酵素500倍1ℓを灌水灌水 → 残した株の発根、生長を促進。
[10月] 下葉整理	整理後の灌水	下葉整理、側芽摘み後 ●根っ酵素500倍1ℓを灌水 → 根から強く。
[11~4月] 収穫中 直根が30cm深 まで伸びて、 根毛が多い事!	本葉13枚以降、 右記を交互に ※(10~)14日間に灌水1回 (収穫直後が良い)	(10~)14日間で、(2~)3枚ずつ収穫し(つねに10枚ほど残す)、 収穫直後 ●根っ酵素500倍1ℓを灌水 → 根から強く展葉促進。 (根腐れ・枯れ込みの対策、葉縁まで厚く、縮み強く、濃緑色の葉に) その7日後 ●花咲くCa液500倍を散布 → 葉に重み、香りを増す。 (ウドンコ・軟腐の対策、アピオール等の精油成分やビタミンが増加)
※チッソ補給は アミノ酸液 2~5ℓ 灌水、または 500倍散布。(酵素の3日後が最適)		
追肥	12月中旬、 2月下旬	●硫安20kg ●畑の大将<青> 20kg

(生育適温:15~20℃。限界:5~25℃。この作型では収穫期は適温となるが、夏期の高湿・多湿に注意)